

◆雪の多い冬だった。雪に慣れているはずの山形でも「あど、ゆぎ（雪）、いらねはあー（もう雪、いらねいよー）」というほど多かった。豪雪地として知られる大蔵村の肘折温泉。積雪記録（最高積雪深四一四センチ）更新で一泊無料もありというキャンペーン「ドカ雪・大雪割」で、三年目にして初めて宿泊料無料となったと聞く。降り方は毎年ちがう。この冬、雪が降っては固まり、降っては固まり、ときには雨が降って夜中に冷えて凍結し、アイスバーンで歩くのもひと苦労という日もあった。道もつるつるで、ごみ出しに行くのもたいへん。雪のほうがまだいいと思った。雪が降ると、なるべく朝七時までに駐車場の雪かきをする。誰かが車で出ていくと、タイヤの通った跡が固まって雪かきがいへんになるから。朝の運動と思ってなるべく疲れない程度にしていたが、ことしの雪は重かった。日に三回雪かきしたこともある。実家の水道管は二回も凍って、設備屋さんに電熱線を巻き直してもらった。油断できない日々だった。

東京も数回、雪が積もったらしい。備えのない地域での積雪はいつそう堪えたに違いない。三月になっても降ったようで驚いた。作品や短信も雪の話題でいっぱいだ。が、季節はめぐる。もう桜の季節である。

◆時に、モリカケ問題。森友問題に関しては、財務省近畿財務局が決裁文書を改ざんしたことがわかった。諸外国は、公文書の改ざんをする国とまともに付き合おうと思うだろうか。いまひとつ事の重大さが認識されていないようだ。どこまで解明されるだろうか。作家の中島京子が「私たちはもう何年も、泥船に乗っているんじゃないかという気がしてくる。財務省の、例の『森友文書改ざん』の報を見ながら」という書き出しでコラムを書いていたが（毎日新聞「時代の風」二〇一八年三月十一日）、「泥船」が単なる例えとは思えないのがなんとも悲しい。

（布宮慈子）

# muninokai.com

上記のサイトでは、フルカラーのオンライン版「展景」を公開しています。

季刊展景 89号

二〇一八年三月三十日 発行

編集・発行人 布宮慈子

制作 スタジオ・マージン

無二の会「展景」発行所

山形市上町二一ー七ー二〇二

[info@muninokai.com](mailto:info@muninokai.com)